

浮金小だより



発行：平成30年12月7日（金）

文責：浮金小学校長 松崎 健一

学習発表発表会はいかがでしたか

11月10日（土）、本校体育館で学習発表会を実施しました。地域の方がたくさん来場され、子どもたちと先生方が一緒に作り上げた劇や合唱・合奏等に、たくさんの拍手をいただきました。ありがとうございました。1・2年生は、授業で学習したことを劇にアレンジして表現しました。3・4年生は、おじいちゃんやおばあちゃんへの聞き取りをもとに昔の浮金について調べ表現しました。5・6年生は、宮沢賢治の『注文の多い料理店』をアレンジして、ダンスや歌を織り交ぜて表現しました。



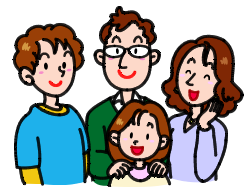
1・2年生
「ようかい浮小ウオッチ」



3・4年生「浮金むかし話」



5・6年生「注文の多い料理店」



浮金お袋の味



発表会の後は、婦人会・若葉会・交通安全母の会の皆さんにお昼を準備していただきました。前日から仕込みをし、当日も朝早くから準備していただきました。五目ご飯、大根のお味噌汁、お新香とどれも絶品でした。おいでくださった皆さんと子どもたちが、一緒に「浮金お袋の味」を楽しみました。郷土の味をありがとうございました。



～個別懇談を実施～ 学校と家庭が手を取り合って・・・



11月14日より数日間をかけて個別懇談を実施しました。子どもへのよりよい教育のため、保護者の皆様には時間を作っていただきありがとうございました。お子さんの学校や家での様子を聞き、今現在のお子さんの課題をどう解決していけばよいのかを共に考えることができましたでしょうか。「家庭でもっと〇〇しないと」「学校がもっと〇〇しないと」と互いを指摘しただけでは子どものためにはなりません。肝心なのは、**学校と家庭がお子さんの課題を共有し、共に考え行動すること**です。今後ともよろしくお願ひします。

予告なしの避難訓練を実施

4日、田村消防署小野分署より3名の講師を招いて避難訓練を実施しました。休み時間に緊急放送を入れました。放送を聴き自分で正しい判断をし行動しなければなりません。事後の反省で、「できていなかったところがある人」と聞くと、何人か手が挙がりました。「自分ができていないことが分かっている人は改善ができる人です。次はがんばりましょう。」と声をかけました。



交通事故防止について

冬を迎え、これからは路面が凍結したり積雪があったりと車の運転には一層注意を払わなければなりません。先月、県内の高校生が家族の送迎中の事故で亡くなるという痛ましい事故が発生しました。つきましては、次の2点について確認です。



- 前方注視と的確なハンドル操作の徹底
- 後部座席を含めた全席シートベルト着用の徹底

小野町小・中学校美術展

○12月15日(土)～24日(月)
○文化の館 9:30～17:30(18日は休館)

1～6年生が作品作りに取り組み出品しています。
1・2年生は絵画、3・4年生は木工作品、5・6年生は共同作品として木の实を使った大作に挑戦しました。是非、ご覧ください。



冬の花壇も 楽しめます

教室前の花壇を
務員さんが整備
しました。小野高
校から購入した
ビオラとパンジー
を植えました。
また地中にはチ
ューリップの球根
があります。ど
のように花壇が
変化するか今
から楽しみです。



校長室より

ある講演会での話です。

『便利』は、子どもの発達を阻害する大きな要因である。

体を使わない	→	体が育たない
手間をかけない	→	脳が育たない
苦労しない	→	心が育たない
人とか関わらない	→	社会性が育たない

確かに、今の世の中、子どもに『便利』な生活をさせ学ぶ機会を奪っているのかもしれない。

さて、話は変わりますが、学校での子どもたちの様子を知る方法として何が考えられますか。「学校だよりや学級だよりを読む」「ホームページを見る」などがすぐに出てくるかと思います。学校では教職員一人一人が使えるPCがあります。写真やイラストを貼り付けながら、子どもたちの学校での様子が分かるように作成しています。私が若かりし頃は、学級だよりを手書きしていました。写真を貼り付けるとなると大変でした。今は、ホームページで学校の様子をその日のうちに伝えることもできます。カウンターをチェックしたところ、今年度は1日平均101.7人の方が見てくださっているようです。ありがたいことだなと思います。

ただし、学校だより・学級だより・ホームページを作成する上で心がけていることがあります。それは、子どもの様子をあまり詳しく書きすぎないようにすることです。「もっと子どもの様子が分かるように書いてください。」という意見もありますが、私は、学校での様子を知る一番の方法は、親が子どもに聞くことだと考えています。「家の子は学校のことを話さないんです。」「話を聞いても何を言っているのかよく分からないんです。」「話を聞く時間がないんです。」と言う人がいます。大人社会の中では「全てこの文書に書いてありますのでお読みください。」で通ります。しかし、子どもを教育すると考えると読んで終わりでは不十分です。おたよ

りをきっかけに、会話をして欲しいのです。いや進んで意識してすることだと考えています。もちろん、学校の様子を聞き出すのに怒っても意味がありません。話し出すように親が仕向けていくことが大切です。上手だろうが下手だろうがいいのです。いろいろな場で話す機会を作らなければ、上手に話せるはずがありません。とにかく、子どもが表現する機会を作ってあげることです。

講演会の話にもどりますが、確かに、単に「楽だ」「簡単だ」と安易な考えでの『便利』の追求は、人間そのものをダメにしてしまうと思います。主体性をもって「便利」な生活をするのが大切なんだろうと思います。

ところで、子どもは主体的に「便利」な生活と向き合えるのでしょうか。生まれたときには、自宅に自動車やPCやテレビや電話が数台ある時代です。また、ゲームをしようと思えばいくらでもできる環境です。スイッチ一つでご飯が炊きあがり、お風呂の準備ができます。大人が『便利』に流されることなく、子どもに対して教育できれば大丈夫なのですが・・・現状は、私たち大人が『便利』さに振り回されている面が多々あるのではと危惧しています。

子どもは、大人を見て育ちます。大人は、親であり地域の人であり先生です。保護者、地域、学校が、同じように子どもの教育に責任を持って育てていかなければなりません。ばらばらに責任をもってはいけません。子どもの教育という点では、親と地域と学校が共通して責任をもたなくてはいけないのです。そうでないと、子どもは自分に都合のよい方に向くようになってしまいます。今、子どもに見せる大人の姿勢が問われていると思いませんか？

